

6. 今後の普及施策①

環境省 チャレンジ25学校キャンペーン

エココミュニティ活動・情報発信の拠点として「学校」を舞台に、小中学生を対象にした「リアルタイム見える化」の環境モデル事業を実施



こどもたちが国民運動の信源地

信源地づくり

「こどもたち」が「見える化運動」の発信源。こどもたちは環境問題が自分たちの将来に大きな影響を与えることを学校や身近な情報から学んでいます。エコに良いと感じることは素直に行動します。こどもたちにとってエコ行動は特別なことではありません。そのようなこどもたちに学校という場を通じて「見える化」の大切さを学べるよう、環境省プラス、自治体、NGOや環境市民、大学（研究機関）、NEC、ユーザ企業の1+5者の推進連携基盤で支援。さらにメディアを巻き込む形でマスから意識啓発・行動の変容を促進するとともに、こどもたちを通して両親・家族へ、その友人・知人へ、さらには地域社会全体への気づきを促していきます。広く社会全体へ「見える化」の国民運動を波及させていきます。

世論形成

国民運動



マスからの意識啓発

世論づくり

- ・電波媒体とのタイアップ
教育番組や経済情報番組などとタイアップし、「国民運動」への世論形成を図ります。またパイドバも積極的に活用します。
- ・生活情報誌とのタイアップ
環境モデル学校の「リアルタイム見える化」活動を密着型レポートし、パブリシティとして取り上げてもらいます。
- ・ネット媒体とのタイアップ
- ・地方新聞との記事タイアップ
- ・シンボルキャラクターによるキャンペーンブランド浸透

2008年制定(現在13都市)環境モデル都市構想を学校や地域にも適用 モデル構想

基盤づくり

環境モデル学校

●全国の登録学校数*

小学校	22,000	大学	500
中学校	10,000	専門学校	4,000
高校	5,000	高専	100
大学	700	中等教育	20
短大	400	その他	1,500

環境モデル地域

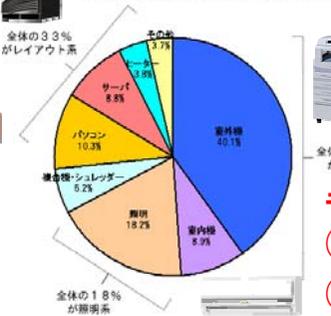
【モデル学校の取り組み例】

- ・エコの時間(≒ゆとりの時間)を作り、マイスターが授業を行います。
- ・エコ教室を開き、父兄参観を実施/親子で学びます。
(環境における事実と重要性を説き、意識を芽生えさせる)
- ・文化祭、音楽祭、学芸会、運動会などをエコをテーマで開催します。
- ・環境タイムカプセル(環境に関する将来の夢を詰め込みます。
「20年後、こんな地球であって欲しい」など)
- ・PC、サーバ、空調、照明、OA機器から発生するCO2の削減度に応じてエコポイントを遡呈。
- ・目標を決め、エコポイントを貯めて、クラス対抗、学校対抗で競い合います。
- ・ポイント度数に応じてリサイクル製品やエコグッズを売買、流通のしくみを提供
- ・優秀校を環境省/こども環境大臣より表彰、顕彰を与えます
- ・NECや企業からSW・サービスを無償提供
- ・もったいない運動を実施します
- ・この活動を地域への取組として「モデル地区」を設定、移行拡大していきます。

学校におけるCO2排出量の実態把握

- ・リアルタイム見える化の実施
- ・見える化端末による照明・空調・IT機器・OA機器の消費電力量の見える化

工務電力使用比率 (NEC事業所調べ)



省エネプランの立案や行動実施機能の提供

※全国の小中学校 約32,000校
32,000×1割=3,200校
3,200校×40PC=128,000PC
128,000×0.0157wh=約2万100t/年
20,100t×0.5=1万500t/6ヶ月

モデル事業のゴール

- ① 国民運動の波及
- ② CO2削減(1万50t削減※)



環境モデル学校・地域共催によるイベントでの意識喚起

話題づくり

- ・ほんとに見えるよ！移動モモハウス「全国のモデル学校をキャラバン」



トレーラーキャラバンに家庭エネルギー体験部屋を設置、体験者は普段生活するように冷蔵庫を開けたり、TVを見たり、エアコンを使ったり、電気をついたり、エネルギー体験ルームでは使ったエネルギーが、PC画面から一目でわかりやすく、目に見える形で体験できる。普段、目には見えない電気やCO2を「目に見える形」で楽しく体験してもらう。

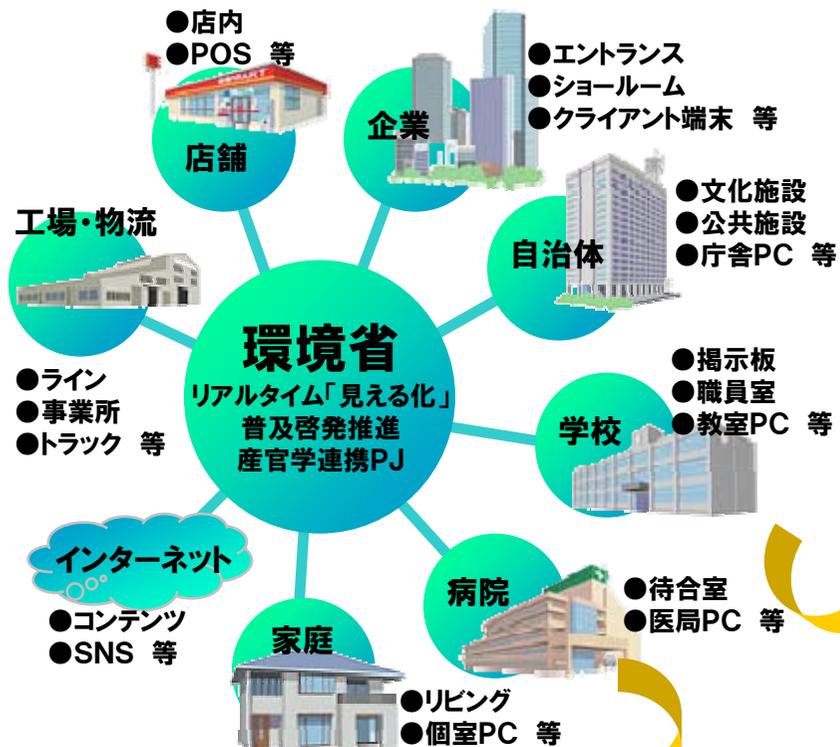
・エコ社会科見学

「環境トップランナー企業の無料見学親子ツアー」

このエコ社会科見学は環境貢献企業のエコ活動について実際にこどもたちとその親に見てもらいます。エネルギーPCにおける可視化のしくみや太陽光発電の実例、水・廃棄物を上手に再利用している…… そうした企業のエコ活動を見る化して紹介します。親子の感想・体験や企業の取り組みをWebやSNSでも掲載し、意見交換をしたり、まだ見学していない家族の関心・興味を惹くようにします。企業にとってもPRなどにつながり一石二鳥です。

6. 今後の普及施策②

環境省 チャレンジ25国民運動キャンペーンや民生部門への波及効果



リアルタイム「見える化」の活動をモデル地区やオフィス、店舗など、対象事業者を拡大し、見える化端末(PCやサイネージ)を設置。実体験を通して、エネルギー消費低減計画のシミュレーションを行う。



《サイネージ掲示板:消費電力のリアルタイム「見える化」イメージ例:オフィスの場合》

オフィス空間で使用している、照明、空調、OA機器(複合機など)、IT機器(PC・サーバなど)、電化製品、フロアレイアウト系(電源)等の消費電力量を自動計測。数値・グラフ化し、リアルタイムに状況把握ができる仕組みを提供。判定基準以上の機器をアラートで表示し、ムダな電力を抑える省エネ行動喚起や意識改革、あるいは自動制御によって電力消費を抑制することが可能。省エネ・CO2削減システムへの理解促進。



《PC端末の画面イメージ例》



《省エネ計画のPDCAサイクル》